令和5年5月16日（火）東奥日報（25面）

体内環境の変化研究

弘大とグリコ、講座開設

弘前大学と大手食品会社の江崎グリコ（本社大阪市）は15日、共同研究講座「体内環境モデリング研究講座」を開設したと発表した。弘大の岩木健康増進プロジェクト健診のビッグデータを解析し、健康の複雑なメカニズムそのものを解明。将来の健康食品開発などにつなげる。

同講座は、弘大が弘前市岩木地区の住民を対象に約20年間行っている大規模健診で集めた、腸内細菌の状態やゲノム（遺伝情報）、健康状態や生活習慣など約3千項目のデータを解析。体内環境の変化と生活の質（QOL）や生活習慣病発症との関連を解明する。

グリコの社内研究所の1人が弘前市に常駐し、研究所のメンバーや弘大のデータ解析チームと連携して研究を進める。期間は今年4月から3年間。

グリコは、1922年にグリコーゲンを入れた栄養菓子「グリコ」を発売したのが始まりで、食品を通じた健康づくりに力を入れてきた。同社の長谷川順一常務（事業変革推進担当）は15日、弘大医学部内で開いた講座開設式で「世界でここにしかないビッグデータを使い、食品によって体内環境がどう変わるのか突き止めたい」と語った。

共同研究講座を開設した弘大の福田眞作学長（左から3人目）とグリコの長谷川常務（同4人目）ら

同講座特任教授の中路重之・学長特別補佐は「われわれの研究のど真ん中に当たるテーマ。一緒に健康の『真実』をつかもう―と言っていただき、うれしい」と語った。

（赤田和俊）